

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。

1. テキストを正確に読解することができる。
2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。
3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。
4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。
5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。
6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。

コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想・創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)

学類のCP

主履修分野のカリキュラム

コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科)

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q				◎	○	◎	○	◎
				1	2	3	4					
21201	フィールド文化学概説A	フィールドワークという方法の長所と短所、面白さと難しさ等について知り、「フィールド文化学」の基礎を学ぶ。	1年			*			◎			
21202	フィールド文化学概説B	フィールドワークという方法の長所と短所、面白さと難しさ等について知り、「フィールド文化学」の基礎を学ぶ。	1年				*		◎			
21203	比較文化学概説 A	南アジアの仏教美術を理解するとともに、人間の文化的所産としての宗教を、幅広い視野から考察することをめざす。あわせて、仏教の基本的な考え方を身につける。	2年				*		◎			
21204	比較文化学概説 B	日本の仏教建築、神社建築に見られる伝統的な建築技術の変遷を通して日本文化の形成とその発展の過程を理解する。	2年				*		◎			
21205	文化人類学概説 A	文化人類学の基本的な考え方やものの見方を学び、自分とは異なる異文化・異社会の人びととの理解や協調の基礎作りをする。	2年			*			◎			
21206	文化人類学概説 B	文化人類学の基本的な考え方やものの見方を学び、自分とは異なる異文化・異社会の人びととの理解や協調の基礎作りをする。	2年			*			◎			
21207	文化遺産学概説A	いわゆる有形・無形の別を問わず、また、日本国内ばかりではなく世界各地の事例についても、文化遺産全般に対する関心を高め、併せて基礎的な知識を習得する。	2年				*		◎			
21208	文化遺産学概説B	いわゆる有形・無形の別を問わず、また、日本国内ばかりではなく世界各地の事例についても、文化遺産全般に対する関心を高め、併せて基礎的な知識を習得する。	2年				*		◎			
21209	考古学概説A	様々な考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域の歴史を復元する能力を習得する。	2年	*					◎			
21210	考古学概説B	様々な考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域の歴史を復元する能力を習得する。	2年	*					◎			
21211	フィールド調査法A	人文系フィールドワークがどのようなものであるのか、また、どのような技術が必要であるのかについて学ぶ。	2年	*					◎	◎	○	○
21212	フィールド調査法B	フィールドワークにより得た資料をどのように整理・分析し、新たな知見を得るのかを学ぶ。	2年		*				○	○	◎	◎
21213	フィールド基礎実習	調査テーマの選び方、聞き取り、参与観察、音声・画像・ビデオ・データの記録・整理・活用、文字記録のつけ方と整理・分析法、仮説の形成ときたえ方、報告書の構成法などを実習を通して身につける。	2年			*	*		◎		◎	◎
41463	比較文化論	世界の歴史的建造物を通して、建築が文化の表現であり、民族性、社会性などを読み取ることができるようにする。	2、3年			*			◎		○	
41464	仏教文化論	インドで起こり、日本を含むアジア各地に伝播した仏教が、それぞれの地域と時代でどのような文化を生み出したかを学ぶ。	2、3年	*					◎		○	
41465	南アジア文化論	仏教石窟、ヒンドゥー教寺院を通して、建築文化の融合の様相を把握できるようにする。	2、3年			*			◎		○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想・創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科)
-----------------------	---

<p>[学類のCP]</p> <p>主履修分野のカリキュラム</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
------------------------------------	--

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
41466	日本の思想と宗教	仏教思想を中心に日本の思想と宗教に関する基礎的な知識と分析方法を習得する。	2,3年		*				◎		○
41467	地域文化論	文化人類学の視点から見た地域文化のあり方を、具体的事例検討を通じて把握する。	2,3年	*					◎		○
41468	比較民族誌	東南アジアの、民族状況や民族の生活を学ぶことを通じて、異文化理解の力を身につける。	2,3年		*				◎		○
41469	文化人類学講義	特定テーマを取り上げ、世界中の具体的な事例をとりあげながら、文化人類学的な観点から、その概念および実態を学ぶ。	2,3年			*			◎		○
41470	東アジア文化遺産学A	大量の書籍・文章を読む力をつける。建築を観察する力をつける。	2,3年		*				◎		
41471	東アジア文化遺産学B	大量の書籍・文章を読む力をつける。建築を観察する力をつける。	2,3年				*		◎		
41472	西洋美術史A	古典古代の様式を把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年	*					◎	○	
41473	西洋美術史B	キリスト教美術の様式を把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年			*			◎	○	
41474	比較美術史	中世キリスト教美術を典拠となるテキストや他の様式の作品と比較して、多角的な視点から理解する。	2,3年	*					◎		○
41475	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、画像資料、文字資料などを駆使して研究する方法を学ぶ。	2,3年		*				◎		○
41476	地域考古学A1	考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域社会を復元する方法を学ぶ。	2~4	*					◎		
41477	地域考古学B1	考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域社会を復元する方法を学ぶ。	2~4			*			○		
41478	地域考古学A2	考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域社会を復元する方法を学ぶ。	2~4		*				◎		
41479	地域考古学B2	考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域社会を復元する方法を学ぶ。	2~4				*		○		
41480	比較考古学A1	考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	2~4	*					◎		
41481	比較考古学B1	考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	2~4		*				○		
41482	比較考古学A2	考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	2~4			*			◎		
41483	比較考古学B2	考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	2~4				*		○		
41484	比較文化論演習A	仏教に関する文献の読解力と、画像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。	2年		*				◎	○	○
41485	比較文化論演習B	仏教に関する文献の読解力と、画像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。	2年				*		◎	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。

1. テキストを正確に読解することができる。
2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。
3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。
4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。
5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。
6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。

コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想・創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)

学類のCP

主履修分野のカリキュラム

コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科)

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q				◎	○	◎	○
				1	2	3	4				
41486	南アジア文化論演習A	インドの文化を表家する彫刻、建築の基本的な文献を読み、作品の主題と意匠を文化的背景の中で理解できるようにする。	2年		*				◎	○	○
41487	南アジア文化論演習B	文献購読を通して建築用語になじみ、建築意匠の特質を理解できるようにする。	2年			*			◎	○	○
41488	地域文化論演習A	地域文化に関する民族誌や研究書を読むことで、地域文化が住民のつくる社会、制度、慣習、またその主要な生業や宗教信仰など多様な要素から構成されていることを知る。	2年		*				◎	○	○
41489	地域文化論演習B	事例研究を通して、文化を生かした地域社会のあり方やその生かし方を考えることができるようにする。	2年			*			◎	○	○
41490	文化人類学演習A	文化人類学および日本民俗学分野の日本語の論文を読み、内容を正確に理解するとともに、人類学的なものの見方を身につける。	2年		*				◎	○	○
41491	文化人類学演習B	特に英語で書かれたモノグラフを読むことを通して、文化人類学の報告書の読み方を学び、人類学的なものの見方の基礎を身につける。	2年				*		◎	○	○
41492	ヨーロッパ文化遺産学演習A	美術史学とは何か、美術史の方法論(様式論、図像学、図像解釈学)の基礎を知る。	2年		*				◎	○	○
41492	ヨーロッパ文化遺産学演習B	キリスト教図像学を中心に、キリスト教美術読解の方法を身につける。	2年			*			◎	○	○
41494	東アジア文化遺産学演習A	東アジアにおける文化遺産学研究的現状と課題について幅広い知識を身に付けるとともに、実際の研究事例に当たり、理論と方法についても理解を深める。	2年		*				◎	○	○
41495	東アジア文化遺産学演習B	いわゆる先史/歴史時代の垣根を取り払い、考古資料、図像資料、文献資料、民族・民俗資料などを駆使して、東アジアにおける物質文化の変遷を明らかにする方法を身につける。	2年				*		◎	○	○
41861	西アジア文化遺産学演習A	西アジア先史・古代の文化遺産について、遺跡を単位として、具体的な調査データを基に遺跡のもつ歴史的・文化的意義を考察できるようにする。	2年		*				◎	○	○
41862	西アジア文化遺産学演習B	西アジア先史・古代の文化遺産について、その基本的枠組みを理解した上で、特定の遺跡についての包括的な考察ができるようにする。	2年				*		◎	○	○
41496	地域考古学演習A1	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学び、それを実地に応用できるようになる。	2~4	*					○	◎	
41497	地域考古学演習B1	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学び、それを実地に応用できるようになる。	2~4		*				◎	○	
41498	地域考古学演習A2	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学び、それを実地に応用できるようになる。	2~4				*		○	◎	
41499	地域考古学演習B2	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学び、それを実地に応用できるようになる。	2~4			*			◎	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想・創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科)
-----------------------	---

<p>[学類のCP]</p> <p>主履修分野のカリキュラム</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
------------------------------------	--

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
41841	比較考古学演習A1	考古学的分析法を通して、東アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2~4			*			◎	○	
41842	比較考古学演習B1	考古学的分析法を通して、アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2~4	*						○	◎
41843	比較考古学演習A2	考古学的分析法を通して、東アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2~4				*		◎	○	
41844	比較考古学演習B2	考古学的分析法を通して、アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2~4		*					○	◎
41845	比較文化学実習A	仏教儀礼、仏教美術、建築の調査を通して、比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3年	*					◎	○	○
41846	比較文化学実習B	比較文化学の基礎的な手法とともに、写真撮影の基本的な技術、デジタルデータの処理・整理・保存方法、ワード、エクセル、Photoshop等のソフトウェアの活用方法を身につける。	3年		*				◎	○	○
41847	比較文化学実習C	比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3年			*			◎	○	○
41848	比較文化学実習D	比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3年				*		◎	○	○
41849	文化人類学実習A	ミクロナ地域社会での生活を、社会、経済、家族関係、信仰などの観点から総合的に把握する方法を身につける。	3年	*					◎	○	○
41850	文化人類学実習B	現地調査の観察・聞き取り資料や文献・統計資料をもとに、随時補充調査をおこないながら、データを整理・分析し、調査報告書の形に纏めてゆく方法を学ぶ。	3年		*				◎	○	○
41851	文化人類学実習C	ミクロナ地域社会での生活を、社会、経済、家族関係、信仰などの観点から総合的に把握する方法を実践的に身につける。	3年			*			◎	○	○
41852	文化人類学実習D	ミクロナ地域社会での生活を、社会、経済、家族関係、信仰などの観点から総合的に把握する方法を実践的に身につける。	3年				*		◎	○	○
41853	文化遺産学実習A	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3年	*					◎	○	○
41854	文化遺産学実習B	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3年		*				◎	○	○
41855	文化遺産学実習C	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3年			*			◎	○	○
41856	文化遺産学実習D	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3年				*		◎	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科)
-----------------------	---

<p>[学類のCP]</p> <p>主履修分野のカリキュラム</p>	<p>人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。</p> <p>自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。</p> <p>フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。</p> <p>フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。</p>
------------------------------------	--

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q							
				1	2	3	4				
41857	考古学実習 I A	考古学にとって最も基本的な作業であるモノの資料化に係わる基礎的技術を修得する。	2~3年	*	*				◎	○	○
41858	考古学実習 I B	考古学にとって最も基本的な作業であるモノの資料化に係わる基礎的技術を修得する。	2~3年			*	*		◎	○	○
41859	考古学実習 II A	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。	2~3年	*	*				◎	○	○
41860	考古学実習 II B	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。	2~3年			*	*		◎	○	○
41448	博物館実習	実際に博物館で実習を行うことで、学芸員の職務内容および博物館の社会的役割について認識と理解を深め、かつ自分自身が学芸員としての適性を有しているかを判断する機会とする。	3, 4年	*	*	*	*		○	◎	◎
41422	博物館概論	博物館の基本的理念とその活動の実態を学び、学芸員が果たすべき役割と基本的知識を身につける。	1年	*	*				◎		
41456	博物館資料論	博物館資料の概要と種類、収集の目的と方法、整理と登録の実際など、博物館資料の取り扱いに関する基礎的知識を学ぶ。	2, 3年	*	*				○	◎	
41457	博物館経営論	博物館の多様なあり方について理解し、それぞれの組織・制度や運営方法を把握した上で、学芸員として円滑に博物館を経営する方法を学ぶ。	2, 3年	*	*				○	◎	
41458	博物館資料保存論	博物館資料の保存に関する基本的な理念、適切に資料を保存する上で配慮すべき環境諸条件、保存や修復の具体的方法について認識を深める。	2, 3年			*	*		◎	○	
41459	博物館展示論	様々な種類の博物館資料を安全かつ効果的に設置する技術を習得するとともに、映像・音声資料などを活用する方法についても学ぶ。	2, 3年	*	*					◎	○
41460	博物館教育論	博物館が担う教育的側面についての理論と方法を学ぶとともに、利用者の多様なニーズに応えるための方策について理解を深める。	2, 3年			*	*			○	◎
41461	博物館情報・メディア論	ユビキタス社会における情報とメディアの取り扱いに関して理解を深めるとともに、博物館情報の収集・発信・共有についての基本的な知識と技術を身につける。	2, 3年			*	*			○	◎
31001	卒業論文演習A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。 	4	*		*			◎	○	○
31002	卒業論文演習B	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。 	4		*		*		◎	○	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	フィールド文化学コース (フィールド文化学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) 人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針) フィールド文化学コースでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とするフィールド文化学コースの専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のようなフィールド文化学コースの学習成果を上げた者とする。
--	---

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科)
------------------------------	--

[学類のCP]	人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。	自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステムティックに遂行することができる。	フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。	フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。
主履修分野のカリキュラム				

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q								
				1	2	3	4					
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学の学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*		*			◎	◎	◎
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)			◎			
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)			◎			
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*			◎			
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*			◎			
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*								○
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*							○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。